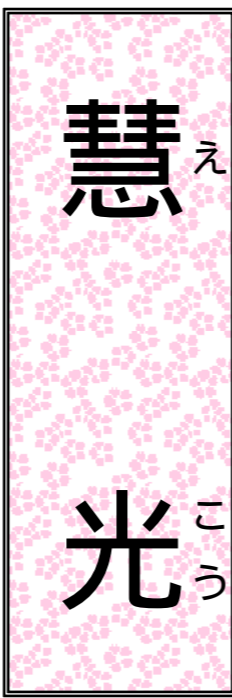




立てば、座れば、歩く姿は の花 これは牡丹です



金光寺寺報 第155号
発行所 金光寺
宮崎県西臼杵郡
五ヶ瀬町大字鞍岡
5927番地
0982
83-2338

今月のことば

きのう聞くも 今日またきくも
ぜひに來いとのおよびごえ (お 軽)

親鸞聖人は「聞く」ということについて、『大経』の本願成就文の「聞其名号」の言葉を解釈して『教行信証』の「信文類」に、

しかるに『経』(大経・下)に「聞」といふは、衆生、仏願の生起本末を聞いて疑心あることなし、これを聞といふなり。

といわれ、また『一念多念文意』にも、「聞其名号」といふは、本願の名号をきくのとたまへるなり。きくといふは、本願を聞いて疑心ころなきを「聞」といふなり。またきくといふは、信心をあらはす御のりなり。

と述べて、名号を聞くというのは仏願の生起本末を聞くことと示され、名号を聞くことがそのまま信心であるといわれます。聞く内容について、仏願の生起とは、阿弥陀如来が本願を起された理由であり、仏願の本末とは、阿弥陀如来が因の位

(法蔵菩薩)のときに起こされた本願が、果の位(成仏)において願い通りに衆生を必ず救う本願力・名号として完成したということです。すなわち、私のところと如来のころの、二つのころを聞くということです。

私のころを聞くというのは、煩惱罪惡に汚染され清浄真実の心がないために、往生できる要素をまったく持たない私のあるがままの相を知らせてもらうということであり、如来のころを聞くというのは、迷いの世界を抜け出すことのできない私を必ず救うはたらきであることを知らせてもらうということです。この二つのころを聞いていくことが、そのまま「ぜひに來い」と願われている喚び声に目覚めていくことです。

(本願寺出版社刊「大乘」誌より転載)

仏事お休みのお知らせ
下記の日、緊急(葬儀)を除き、法事はいたしません。ご協力をお願いします。
5月 13日 高千穂組組会
6月 5日~8日 上 洛(本山法要)
28日 女性の集い 前日準備
29日 女性の集い
7月 23日 高千穂組仏教夏季講座

4月、次の金光寺門信徒の方がご往生なさいました。謹んでお悔やみ申し上げます。
2014年 4月 7日 寂 満65歳
高千穂町 染 矢 進 一 様
2014年 4月 9日 寂 満68歳
高千穂町 福 島 美津子様
2014年 4月 21日 寂 満62歳
矢惣園 岩 野 聖 興 様
2014年 4月 26日 寂 満54歳
山都町 木 村 みどり様

ホームページ開いています。
URL <http://konkhoji.jp/>
5月8日現在 アクセス数 74,016人

坊守のたつての願いで先月二十九日、有田陶器市に行きました。毎年、ゴールデンウィーク期間中に開催されているようです。日向市発のバスツアーに高千穂から乗車したのですが、添乗員さんの話によると、陶器市は十日間開催され、延べ二十万人の人々が訪れるそうです。それを聞いてげすな私がすぐ考えたのは「一人一円の支出で百二十万円、十円で千二百万円、百円で一億二千万円、千円だと十二億円、五千円だと六十億円になるっちゃ」。何ごとにもすぐお金に換算するといけません。私たちが行った日は天気予報が雨だまじりだったため、雨が多くなるとはありませんでした。二十倍くらいは瀬町の人口ではないでしょうか。私はたまたま用金のどんぶりを買ったので、のほぼぼ一番の店は陶器市場のほぼ一番はじつこ。途中で乗車時間が迫って、帰りのバスに半分の道で断念。ちなみで残りの道のりにお店がずつとありました。(住職 松井卓郎)

仏教用語豆辞典

獅子奮迅 ししふんじん
「野茂はすごい」プロ野球ファンは唸ります。何しろ三振の山を築き、記録を塗り替え、MVPをはじめ多くのタイトルを独占し、新人と思えないような獅子奮迅の活躍でした。
獅子奮迅とは、獅子が奮い立つたように、勢いの盛んなことを

いい、大活躍をする状態を形容する日常語です。
仏教では、獅子は師子と書き、仏典に「諸仏の師子奮迅の力」(法華経)「師子王自在奮迅のごとし」(大般若経)とあります。
仏が大悲の身を奮い、衆生のために外道などの小獣を畏伏させる、その様子が、獅子が奮迅するのに似ているので、これを「師子奮迅三昧」といいます。仏が入る三昧です。
獅子は百獣の王です。仏も人間の王であり、獅子にも喩える

べきお方という意味で、仏教では、仏を獅子に喩えています。
仏の座を師子座、仏の歩みを師子歩、仏の説法を獅子吼という具合です。
そういえば、プロ野球ファンには「神様、仏様、稲生様」といつた昔が、懐かしいですね。
(本願寺出版社発行 辻本敬順著 仏教用語豆辞典一〇〇パート1から)

住職ひとりごと

念仏三昧のお育て

ゴールデンウィークを過ぎました。こどもの日、五月五日は立夏であり、暦の上では夏になったのですが、早朝はまだ冷え込みが厳しく、梵鐘を撞く時間帯、吐く息が白く見えることもありませす。しかし、確実に夏の訪れを感じることでできる日々になりました。

先月は一日から四日まで私事で寺坊を離れましたので、その間、葬儀がなければと思つたことでした。しかし、帰宅後の七日以降、四人の方が次々とお亡くなりになりました。

いつも、お葬式のご縁をいただくたびに故人とご遺族・ご親族の皆さま或いは、葬儀にご参列の皆さまとの深い結びつきを感じることで、そのたびに通夜のおつとめでとなえ

る宗祖親鸞聖人さまの『高僧和讃』「龍樹讃」の次のご和讃に深く感じ入らせていただきます。

恩愛はなはだちがたく
生死はなはだ尽きがたし
念仏三昧行じてぞ
罪障を滅し度脱せし
（『注釈版聖典』五八〇頁）

今回、昨年五月から胃がんの病魔と闘いながら満五十四歳で亡くなられた方の葬儀で次のような甲辞がありました。

衰えつつある記憶に残つた一部分だけしか紹介できません。お許しください。
甲辞は生前、故人が入つておられたNPO法人「S」の代表の方です。

まず、故人の生前のお声が入つたCDをながされ後、「聞きにくかったと思いますが、最後に彼女が言った言葉は最初はみんなありがとうでしたが、その後は家族のみんなありがとうと言いました」と申されたのです。故人とご家族の深いつながりがうかがえるありがたい甲辞でした。

葬儀が終わつた三日後に、七日速夜法要のお参りに行つておつとめが終わり、お斎をいただきながらご家族・ご親族としばらくお話をしました。その会話の中で、故人のお姉さんが



「もう少し、妹に良くしてやれば良かったなと思います」と言われたので、「妹さんのお声に家族のみんなありがとうとあつたではないですか、妹さんは皆さんに十分感謝しておられたと思いますよ」とお答えしたことでした。

身近な方とお別れは本当にたちがたい恩愛が別れた今も存在することを教えてくれます。そして、私たちは尽きることはない生死の苦海に今生きているのです。いつか必ず娑婆の縁尽きる日が来ます。その時に阿弥陀さまのお慈悲に願われて、先にお浄土へ救われていかれた故人と再びあわせていただくお育て、「念仏三昧」の日暮らしを過ごさなければならぬと思ひます。

念仏三昧の日々は、煩惱にまみれた私の罪障を阿弥陀さまがすべて引き受けてくださり、悟りの岸に救われていく、無礙の一道です。

法語の世界

〈原文〉

蓮如上人、無紋のものを着ることを御きらひ候ふ。殊勝さうにみゆるとの仰せに候ふ。また、墨の黒き衣を着候ふを御きらひ候ふ。墨の黒き衣を着て、御所へまゐれば仰せられ候ふ。衣紋ただしき殊勝の御僧の御出で候ふと、仰せられ候ひて、いやわれは殊勝にもなし。ただ弥陀の本願殊勝なるよし仰せられ候ふ。

（蓮如上人御一代記聞書 百六十七）

〈現代語訳〉

蓮如上人は無地のものを着ることをおきらいになりました。「紋のない無地のものを着るといかに僧侶らしくありません。紋に見えてしまふ。」という仰せでありました。また墨染め黒い衣を着ることもおきらいになりました。墨染めの黒い衣を着て訪ねてくる人がいると、「身なりの正しいありがたいお坊さまがおいでになつた」とからかつて、「いやいや、わたしのようなのは、全然ありがたくない。ただ弥陀の本願だけがありがたいのである」と仰せになりました。

第三十五回高千穂組仏教女性の集いのご案内

とき	平成二十六年六月二十九日(日)
ところ	高千穂町自然休養村センター
ご講師	熊本教区 山鹿組 常法寺住職 浄土真宗本願寺派布教使 佐々木 高 彰 師
法題	阿弥陀如来さまの救い
参加費	千三百円(資料・昼食代)
持参品	経本・念珠・門徒式章・筆記具・お茶
その他	仏教婦人会の支部長を通して参加を募りますので、参加希望者は参加費を添えて支部長へお申込み下さい。

初盆をお迎えになられるご家庭へ

昨年、8月以降に身近な方がお亡くなりになられ、本年、初盆をお迎えの皆さま、寂しいお盆をお迎えになられることと存じます。

鞍岡地区では、ご親族やご縁のあった地域の方などをお迎えして初盆会法要をおつとめになる風習がありますが、本年、そのような形で法要をお考えのお宅は、早めにご連絡ください。連絡いただいた順にご希望の時間で法要を設定いたします。

なお、すでに次の時間は法要が決まっております。

記

8月13日 午前11時
8月14日 午前10時